

令和5年第1回砂川市議会定例会
第1予算審査特別委員会

令和5年3月6日（月曜日）第1号

開会宣告

正・副委員長の互選

開議宣告

議案第 1号 令和4年度砂川市一般会計補正予算

議案第 2号 令和4年度砂川市国民健康保険特別会計補正予算

議案第 3号 令和4年度砂川市介護保険特別会計補正予算

議案第 4号 令和4年度砂川市後期高齢者医療特別会計補正予算

議案第 5号 令和4年度砂川市下水道事業会計補正予算

議案第 6号 令和4年度砂川市病院事業会計補正予算

散会宣告

○出席委員（11名）

委員長 北谷文夫君

副委員長 中道博武君

委員 多比良和伸君

委員 佐々木政幸君

武田真君

増山裕司君

飯澤明彦君

増井浩一君

沢田広志君

辻 勲君

小黒弘君

（議長 水島美喜子）

○欠席委員（0名）

○ 第1予算審査特別委員会出席者 ○

1. 本委員会に説明のため出席を求めた者

砂川市長 善岡雅文

教育長 高橋豊

砂川市監査委員 栗井久司

2. 砂川市長の委任を受け説明のため出席する者

副市長 湯浅克己

総務部長 井上守
兼 会計管理者

総務部審議監	安原雄二
兼DX推進課長	板垣喬史
総務課副審議監	齊藤史武
市長公室課長	小島武晴
政策調整課長	玉川田一
会計課長	堀田原一希
市民部長	河原藤末
市民生活課長	伊江安三
税務課長	岡橋康
保健福祉部長	佐藤哲一
社会福祉課長	中東奥
兼子ども通園センター所長	櫻山田
介護福祉課長	野田山
ふれあいセンター所長	畠山秀
経済部長	近藤恭
経済部審議監	金泉敏
商工労働観光課長	岩崎賢
商工労働観光課副審議監	朝日紀
農政課長	山田基
開発推進課長	洪谷和彦
建設部長	為国内
土木課長	大和
土木課副審議監	倉島久
建築住宅課長	
病院事務局局長	
兼附属看護専門学校事務管理者	
病院事務局次長	
兼医師診療支援室副審議監	
兼附属看護専門学校副審議監	
病院事務局審議監	
兼経営企画課長	
管理課長	
管理課技術長	
管理課副審議監	
医事課長	

地域医療連携課長 兼訪問看護ステーション副審議監 兼がん相談支援センター副センター長	堀 下 直 樹
教育研修センター副センター長	森 田 康 晴

3. 砂川市教育委員会教育長の委任を受け説明のため出席する者

教 育 次 長 兼 学 務 課 長 兼 学 校 給 食 セ ン タ ー 所 長	峯 田 和 興
指 導 参 事	小 林 晃 彦
教 育 委 員 会 技 監	徳 永 敏 宏
学 校 再 編 課 長	作 田 哲 也
社 会 教 育 課 長	安 武 浩 美
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	佐 々 木 純 人
公 民 館 長 兼 図 書 館 長	谷 口 昭 博

4. 砂川市監査委員の委任を受け説明のため出席する者

監 査 事 務 局 長	山 形 讓
-------------	-------

5. 砂川市選挙管理委員会委員長の委任を受け説明のため出席する者

選 挙 管 理 委 員 会 事 務 局 長	井 上 守
選 挙 管 理 委 員 会 事 務 局 次 長	板 垣 喬 博

6. 砂川市農業委員会会長の委任を受け説明のため出席する者

農 業 委 員 会 事 務 局 長	中 村 一 久
農 業 委 員 会 事 務 局 次 長	野 田 勉

7. 本委員会の事務に従事する者

事 務 局 長	為 国 修 一
事 務 局 次 長	川 端 幸 人
事 務 局 主 幹	斉 藤 亜 希 子
事 務 局 係 長	野 荒 邦 広

開会 午前11時22分

◎開会宣告

○議長 水島美喜子君 ただいまから第1予算審査特別委員会を開きます。

◎正・副委員長の互選

○議長 水島美喜子君 お諮りします。

正副委員長の互選については、慣例により私から指名することにご異議ありませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、私から指名いたします。

第1予算審査特別委員長には北谷文夫委員、同副委員長には中道博武委員を指名いたします。

休憩 午前11時23分

〔委員長 北谷文夫君 着席〕

再開 午前11時24分

○委員長 北谷文夫君 お諮りいたします。本日の委員会に一般傍聴の方から委員会の傍聴の申出がありました。このことについて許可することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、委員会傍聴を許可することに決定をいたしました。

暫時休憩いたします。

休憩 午前11時24分

再開 午前11時25分

○委員長 北谷文夫君 休憩中の会議を再開します。

◎開議宣告

○委員長 北谷文夫君 直ちに議事に入ります。

○委員長 北谷文夫君 本委員会に付託されました議案第1号 令和4年度砂川市一般会計補正予算、議案第2号 令和4年度砂川市国民健康保険特別会計補正予算、議案第3号 令和4年度砂川市介護保険特別会計補正予算、議案第4号 令和4年度砂川市後期高齢者医療特別会計補正予算、議案第5号 令和4年度砂川市下水道事業会計補正予算、議案第6号 令和4年度砂川市病院事業会計補正予算の6件を一括議題といたします。

お諮りいたします。審査の方法としては、まず一般会計を行うこととし、歳出を款、項ごとに、続いて継続費補正、繰越明許費補正、地方債補正、歳入の順で行い、次に特別会計の歳入歳出、事業会計の収入支出を一括審査する方法を進みたいと思います。このこと

にご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、そのように進めてまいります。

初めに、議案第1号 令和4年度砂川市一般会計補正予算の歳出から審査に入ります。
84ページ、第1款議会費、第1項議会費について質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、86ページ、第2款総務費、第1項総務管理費について、ございませんか。

武田委員。

○武田 真委員 89ページのふるさと応援寄附金に要する経費について伺いますけれども、非常に後半寄附金の額が伸びたということなのですが、具体的な寄附金の総額と、寄附の返礼品の内訳等、もう少し具体的なお話を伺いたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 総務課副審議監。

○総務課副審議監 齊藤史憲君 ふるさと応援寄附金に要する経費なのですけれども、昨年の第4回定例会には約9億1,000万の寄附を見込んだ補正予算を提案させていただいたところですが、年末にかけて想定を大きく上回る寄附をいただけたことから、およそ12億円の歳入を見込んだ関連経費を歳出予算として提案させていただいているところであります。返礼品の品目なのですけれども、令和4年度は215品目を用意したところでございます。

○委員長 北谷文夫君 武田委員。

○武田 真委員 今般寄附いただいたのですけれども、返礼品二百十何品ですか、大体どのような返礼品の割合とか、もう少し具体的なお話を伺いたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 副審議監。

○総務課副審議監 齊藤史憲君 返礼品の内訳のさらに詳しいものになるのですけれども、12億ほどの寄附をいただいた中でおおよそ割合にして、件数にして8割ほどを占めておりますのは化粧品製造販売業の品物でございます。それから、約1割ちょっとを占めておりますのが革製品取扱業、残りの1割程度がその他、米であったりお菓子の商品でございます。

○委員長 北谷文夫君 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、次に98ページ、第2項徴税費について質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、100ページ、第3項戸籍住民基本台帳費についてご質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、102ページに参ります。第4項選挙費について、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

続いて、104ページ、第5項統計調査費、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、第6項監査委員費、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、106ページ、第3款民生費、第1項社会福祉費について質疑ございませんか。
武田委員。

○武田 真委員 113ページの新規事業、砂川福祉会運営費補助金でICTソフト導入と伺いましたけれども、もう少し具体的な内容を伺いたと思います。

○委員長 北谷文夫君 介護福祉課長。

○介護福祉課長 岡 康裕君 砂川福祉会の運営費補助金の具体的な内容ということでございますが、1つはICT導入事業でございます。これにつきましては、パソコン25台、タブレット6台、それからクラウド化事業、それから勤怠管理システム導入事業、合わせまして1,697万800円と聞いているところでございます。

○委員長 北谷文夫君 武田委員。

○武田 真委員 そうしますと、基本的には事務的な部分で使っているパソコン等の更新と考えてよろしいでしょうか。

○委員長 北谷文夫君 介護福祉課長。

○介護福祉課長 岡 康裕君 大きいところは、ICTの導入事業が1,580万7,220円と聞いておるところでございます。そこが一番大きいところでございます。導入事業によりまして電子保存による文書量の削減ですとか、転記不要による記録負担の軽減、標準仕様の活用データによる連携の効率化、情報共有の促進による質の向上につながりまして、この一部を助成することによりまして安定した事業運営、あるいは介護職員の事務負担の軽減により入所者の利便性が図られるというところで助成をいたしたいというところでございます。

○委員長 北谷文夫君 小黒委員。

○小黒 弘委員 私も同じところで砂川福祉会の運営費補助金の関係でお伺いします。

今総額1,697万ということで、市の予算化は700万9,000円ということなのですけれども、中身は分かったのですが、条例によるということも分かっていますが、その根拠、市が出すべく根拠、そこをお伺いします。

○委員長 北谷文夫君 介護福祉課長。

○介護福祉課長 岡 康裕君 支出の根拠というご質問でございますが、支出だけの根拠を言いますと、砂川市社会福祉法人の助成に関する条例という条例に基づきまして支出をするわけでございますが、砂川福祉会の成り立ち、あるいは特別養護老人ホームは第1種社会福祉事業で社会福祉法人でしか運営ができないといったところ、あるいは老人保健施設みやかわ等の介護サービスの一体的なケアが可能であり、地域福祉の担い手として市民

が地元地域で安心して暮らせる環境整備に貢献しているということも鑑みまして助成をいたしたいということでございます。

○委員長 北谷文夫君 小黒委員。

○小黒 弘委員 金額を出す上での積算根拠、そこです。

○委員長 北谷文夫君 介護福祉課長。

○介護福祉課長 岡 康裕君 金額を出す上での積算根拠というご質問でございますが、総事業費1,697万800円でございますが、このうちICT導入事業につきましては約4分の3の補助率で北海道から介護ロボット導入支援事業費補助金ということで962万5,000円が補助される予定でございます。また、クラウド化事業につきましては、サービス等生産性向上IT導入支援事業費、これは中小企業庁でございますが、こちらから約2分の1、33万6,000円が補助されることでございます。余りました部分でございますが、そこにつきまして砂川市として700万9,000円を補助したいと考えているところでございます。

○委員長 北谷文夫君 小黒委員。

○小黒 弘委員 こうやって聞いていくと、社会福祉法人の自主的なお金というのはゼロなのかを確認します。

○委員長 北谷文夫君 介護福祉課長。

○介護福祉課長 岡 康裕君 社会福祉法人の実質的な負担につきましてのご質問でございますが、残りの部分を砂川市が負担するというところでございますから、実質的にはないということで積算はしております。これが介護の質の向上につながっていくという部分もございまして、近年はコロナの影響もございまして収支状況につきましては毎回市へ提出していただいているところですが、報酬単価が公定価格により定められているという介護施設につきましては一層厳しい状況になっているということも鑑みまして、市といたしましても残りの部分を助成するというところでお願いしたいという予算案になっております。

○委員長 北谷文夫君 小黒委員。

○小黒 弘委員 条例で決まっているのは、先ほども言ったとおりに分かっております。ただ、条例でこれだけの案分でということは書かれていないはずだと思うのです。それで、当然社会福祉法人も民間の企業です。自らの努力も当然していただかないと、今後経営の面でもいろいろなことが起こってくる可能性があると思っております。確かに立ち上がった経緯、そこも分かりますけれども、ある一定の部分で市としてこういう場合はどのぐらいの案分でとかというようなこと、今の状態でいくとコロナで云々というような理由もあつたのですけれども、今回は特別こういう状況にするのか、もう一つはある程度今後それぞれの施設も古くなってきていろいろな改修、改善も必要になってくるだろうとは思っております。そのときに国からの補助、どこかからの補助、残りは全部市というような形でいくと、何の決まりもなく困ったから市でお願いしますという形ではまずいだろうと私は思ってい

ます。あくまでも民間企業ですから、私たちは経営については質疑ができないのです。そういう意味からいえば、このところはしっかりとある程度の基準というか、方向性というか、そういうものを決めていかないと、今後いろいろなものが出てくるのではないかと私は今思うのですけれども、今回のこの予算に関してその辺の議論というのはあったのかどうかお伺いします。

○委員長 北谷文夫君 保健福祉部長。

○保健福祉部長 安田 貢君 ただいま委員から社会福祉法人自体のこと、また今後のことを含めまして何かしらの基準ということまでのご質問でありますけれども、今回社会福祉法人からこの案件についてご相談を受けまして、その事業内容が基本的には北海道の補助事業に準じたものであると、ただその事業規模が1,700万のうち道補助は約1,000万であるというところで700万の自己負担については今般の社会福祉法人のコロナによる影響ですとか、また非常に様々な件で電気、燃料費の高騰等もある中、ご相談を受けた段階といたしまして、この残った残額分については非常に事業効果が大いものであるということで、当市として残額の補助をいたしたいという補正予算案の提出でございます。今後改修等についてのそういったことに備えての基準ということではありますが、その段階においてどのような形で、将来的に社会福祉法人からご相談を受ける内容によって、また今の段階で明確な基準をつくるということはその状況も鑑みなければなりませんので、それは非常に難しいものと考えておりますし、将来的なことについて長期的なことであるならば、それは当該社会福祉法人と日頃から情報交換等も行っておりますので、その中で検討を将来的に進めていかなければと考えているところでございます。

○委員長 北谷文夫君 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、次に114ページ、第2項児童福祉費について質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、122ページ、第3項生活保護費について、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、126ページ、第4款衛生費、第1項保健衛生費についてご質疑ございませんか。
武田委員。

○武田 真委員 131ページの中・北空知廃棄物処理広域連合に要する経費について伺いたいと思います。

負担金について減少した理由について売電収入が増ということなのですが、具体的にその売電収入はどのくらいあるのか、過去の経過と比較して増加傾向にあるのかともう少し具体的な売電の部分について伺いたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 市民生活課長。

○市民生活課長 伊藤修一君 中・北空知広域連合での費用というところでありますが、

この売電収入の増というのはバイオマス比率というものがございまして、それをエネクリーンではどのぐらいの割合を占めているかということを検査しております。その比率が上がることによって売電の単価が上がるというところでもあります。そういったことから、令和4年度の補正としてエネクリーンでは1,695万6,000円の増ということで、この結果、各構成市の負担が減ったというところでもございました。

○委員長 北谷文夫君 武田委員。

○武田 真委員 売電収入が増えたというのは、いいことだと思うのですが、当然今電気料が高いという傾向もあるのかと思うのですが、過去の経過と比較して直近で急に売電収入が増えたのか、その辺の傾向等、概要的な部分でいいので、もう少し詳しく売電の傾向等が分かれば伺いたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 市民生活課長。

○市民生活課長 伊藤修一君 売電の傾向ということでもありますけれども、過去の数字でかなり古いところからというところは手元に資料がないところでもございますが、売電の収入につきましては昨年とほぼ同様の金額になるかというところでもございました。

○委員長 北谷文夫君 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、132ページ、第2項清掃費について、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に行きます。134ページ、第5款労働費、第1項労働諸費についてご質疑を受けません。ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、136ページ、第6款農林費、第1項農業費について、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、140ページ、第2項林業費、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、142ページ、第7款商工費、第1項商工費について、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、148ページ、第8款土木費、第1項土木管理費、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、第2項道路橋梁費、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、150ページ、第3項河川費、ご質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、152ページ、第4項都市計画費について、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、154ページ、第5項住宅費、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、158ページ、第9款消防費、第1項消防費について質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、160ページ、第10款教育費、第1項教育総務費、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、162ページ、第2項小学校費、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、166ページ、第3項中学校費、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、170ページ、第4項社会教育費、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、176ページに参ります。第5項保健体育費、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、180ページ、第6項給食センター費、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に参ります。182ページ、第11款公債費、第1項公債費について質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、184ページ、第12款諸支出金、第1項過年度過誤納還付金についてございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、第2項特別会計繰出金、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に参ります。186ページ、第13款職員費、第1項職員費について質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に参ります。8ページ、第2表、継続費補正について質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

続いて、9ページ、第3表、繰越明許費補正について質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

続いて、10ページ、第4表、地方債補正について、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

続いてまいります。歳入に入ります。14ページから82ページまで質疑ございませんか。

小黑委員。

○小黑 弘委員 とても細かいところなのですけれども、74ページの諸収入の雑入の10節、市史の関係なのですけれども、収入が33万1,000円ということで、たしか1部5,000円で売っていたかと思うのです。何冊が今のところ売れているのですか。

○委員長 北谷文夫君 総務課長。

○総務課長 板垣喬博君 市史の頒布収入ということで、今回33万1,000円の補正をして、当初予算と合わせて最終予算額34万円ということになっておりますけれども、今委員さんおっしゃられたとおり新しい市史につきましては1冊5,000円で販売をしています。今現在ですけれども、この5,000円の市史が58冊、それに今回購入された方の中でどうせであれば前回平成3年に発行した市史についても併せて購入したいということで、こちらは1万円なのですけれども、こちらが5冊ということで合計34万円という内訳になっております。ただ、こちらにつきましては12月時点の予算計上時でありますので、それ以降1月、2月でもプラスアルファで数冊購入されている方がいらっしゃるというのが現状でございます。

○委員長 北谷文夫君 小黑委員。

○小黑 弘委員 ちなみに、その1月、2月でどのぐらい売れたのですか。

○委員長 北谷文夫君 総務課長。

○総務課長 板垣喬博君 プラス5冊ぐらいというところでございます。

○委員長 北谷文夫君 小黑委員。

○小黑 弘委員 もう少し売れるものかと実は思っていて、今作る予算は忘れてしまったのですけれども、結構かかっていますよね。作る、作ると今までやってきたし、いろいろな皆さん方の原稿や何かでも協力もいただいたり、写真もなるべく多く使って載せるような話もしてきたと思うのです。もう少し関心を持ってもらえていたとすれば、この時期でわっと売れないと、市史はどこかへ行ってしまったのだろうかみたいな形にもう既になっていくのだろうと思うのです。その割には100も行かないというのは、何とも寂しいと思うのですけれども、これからどうしていこうとするのでしょうか。ごめんなさい。何冊作ったのか、そこも併せて聞かせてください。

○委員長 北谷文夫君 総務課長。

○総務課長 板垣喬博君 新しい市史につきましては1,200部作成をしております。販売価格、先ほど単価の話も出ましたけれども、こちらにつきましては5年間の債務負担行為の中で契約を結んだうち、印刷業務に係る印刷費640万を1,200部で割ったということで1冊当たり5,000円の単価ということでございます。今現在1,200部作ったうち500部ぐらいが実は出ておりまして、先ほど購入された以外の部分につきましてはできるだけ多くの方の目に触れていただきたいと、役立ててもらえる場所へということで公民館ですとか、各自治体であったり、小学校、中学校であったり、空知管内の役

場関係、そういった場所に寄贈しているのが440程度あるという状況であります。また、今ふるさと応援寄附金の返礼品としても、実は市史も返礼品の中に入れていますが、こちらについては何とかしていろいろな方というような策は売っているのですけれども、実績としてはなかなか伸びていないという状況になっております。

○委員長 北谷文夫君 小黒委員。

○小黒 弘委員 もう少し頑張りましょうか。せっかく作った市史だし、私ももちろん買って読みました。昭和からということで分かりやすく書かれてもいるし、写真もたくさん使われていて非常にいいと思っているので、ただ忘れられてしまうところのまま購入がストップしても困ると思うので、もう一つアドバルーンでも何か上げてもらってこれがいろいろな方に読まれるようにしてほしいと思います。

以上です。

○委員長 北谷文夫君 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第1号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

午後1時まで休憩します。

休憩 午前11時55分

再開 午後 0時56分

○委員長 北谷文夫君 休憩中の委員会を再開いたします。

議案第2号 令和4年度砂川市国民健康保険特別会計補正予算の審査に入ります。

これより質疑に入ります。歳入歳出一括してございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第2号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、議案第3号 令和4年度砂川市介護保険特別会計補正予算の審査に入ります。
これより質疑に入ります。歳入歳出一括してございませんか。

武田委員。

○武田 真委員 27ページの居宅介護サービス費の支給に要する経費とその下の地域密着型介護サービス費の支給に要する経費なのですが、利用者が少なくなったというようにお話だったので、どのような理由で利用者が減ってしまったのか、その具体的な内容等を伺いたいと。

○委員長 北谷文夫君 介護福祉課長。

○介護福祉課長 岡 康裕君 介護サービス等諸費でございますが、介護サービス諸経費で少なくなったところにつきましては訪問介護、訪問入浴介護が主なところでございまして、そのほか居宅療養管理指導などが減になってございます。また、地域密着型介護サービスでは、認知症対応型共同介護、認知症対応型通所介護が減になったことによりまして減になっております。また、特徴的なところとしまして、施設介護サービス事業費につきましては介護老人福祉施設、介護老人保健施設が増になっているところでございます。見込みより本年度増になったところでしたので、その分補正をさせていただいているところでございます。

○委員長 北谷文夫君 武田委員。

○武田 真委員 これは、利用者が減ったのが理由なのかと思うのですが、その利用者が減ってしまった要因について市としてはどのように分析されているのか伺いたいと。

○委員長 北谷文夫君 介護福祉課長。

○介護福祉課長 岡 康裕君 今現在どのような形で利用者が減っているかというところでございますが、新型コロナウイルスの影響かと思いますが、通所あるいは訪問が予想より減っておりまして、そのところが今後のことですが、回復される予兆もございませけれども、令和4年度の3月までは予測しますとこのような形で減となるのではないかと、令和5年度は当初についてはまた回復するような形と予測はしておりますが、何とも言えないような状況でございまして、取りあえずこの減額で予算上は足りるような補正とさせていただいているところでございます。

○委員長 北谷文夫君 武田委員。

○武田 真委員 そうしますと、あくまでも減った要因はコロナによる一時的なもの、ここ二、三年ですけれども、ということで需要については今後回復していくという見通しということで理解していかどうか確認します。

○委員長 北谷文夫君 介護福祉課長。

○介護福祉課長 岡 康裕君 私どもが1件1件確認したわけではございませんが、傾向を見ますと施設の関係で、休所した期間もある施設もございまして。そういったところもご

ございますので、コロナの影響が大きいのではなかろうかと考えておりますので、このような減になったと考えているところでございます。

○委員長 北谷文夫君 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第3号を採決します。

本案を、原案のとおりに決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおりに可決されました。

続いて、議案第4号 令和4年度砂川市後期高齢者医療特別会計補正予算の審査に入ります。

これより質疑に入ります。歳入歳出一括してございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第4号を採決します。

本案を、原案のとおりに決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおりに可決されました。

続いて、議案第5号 令和4年度砂川市下水道事業会計補正予算の審査に入ります。

これより質疑に入ります。収入支出一括して質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第5号を採決します。

本案を、原案のとおりに決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおりに可決されました。

続いて、議案第6号 令和4年度砂川市病院事業会計補正予算の審査に入ります。

これより質疑に入ります。収入支出一括して質疑ありませんか。

小黒委員。

○小黒 弘委員 それでは、病院事業会計についての質疑を行います。

先ほどの提案説明でもあったのですけれども、今回大きな赤字になっています。ある程度の理由は聞かせていただいたのですけれども、改めてその赤字の要因についてお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 病院事務局審議監。

○病院事務局審議監 渋谷和彦君 キャッシュフローのページを見ていただくと、今年度、当年度の純損失が約12億5,000万となっております。当初予算と見るとそれほど大きく変わってはいませんが、医業収益を見ると入院収益で約14億円ほど減少といったことで大きな影響を受けております。これは、昨年7月から院内におきましてクラスターが頻発し、計5回ほどクラスターが出ておりまして、今年の1月下旬ぐらいまでそのクラスターが発生したまま影響を受けております。あと、提案説明でもしましたが、職員が陽性になった、それからご家族の方が陽性になって濃厚接触者になられた職員も多数います。7月からの平均でいきますと、約20名以上の職員の方が平均して休みになっているのですとか、1日最大でいきますと約65人の職員が休んでいるといった日も確かにありました。こういったことで診療制限をしなければ一般の患者さんにも影響が出るといったこともあって、診療制限をやむなくかけたところです。一般の患者さんにつきましても職員がいませんので、フルに空いている病床に患者さんを入れることもできないといったことで大きく入院の患者さんも予算と比較すると約1万6,000人ほど減少している、それから手術、検査も先送りにかなりの数をしていますので、診療単価も2,000円以上落ちているといったこともありまして大きく診療収益、医業収益の減少があったといったことになってございます。

○委員長 北谷文夫君 小黒委員。

○小黒 弘委員 それにしても、入院収益が14億円の減ということで補正が出ているわけです。これは、クラスターだけの問題なのか、外来収益は1億3,000万ほど上がってはいるので、クラスターが主な要因ではあるのだろうとは思いますが、もしかしたら全体の患者さんそのものがそろそろ減り始めているような状況もあるのではないかともしったりもするのですが、この入院収益の14億円の減はクラスターと解釈してある程度のコロナが収まった段階では回復していくというような思いを持ってもいいものなのかどうか、その辺をもう少しお伺いしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 医事課長。

○医事課長 倉島久徳君 入院収益の減少に対する質問でございましたが、まずクラスターの発生する前の4月から7月の患者数につきましては延べ患者数で4万3,700人ほ

どで、前年比で1,700名ほど増加している状況でございました。その後7月の末頃より各病棟等でクラスターが発生したことに伴いまして、8月から12月までで約1万人ほど入院患者が減少している状況で、ここが大きく収益の減少になった原因となっております。また、手術につきましても4月から7月までの実績なのですけれども、1,478件手術をしております、こちらも前年対比で160件増加している状況でした。その後8月から12月までの手術件数につきましては、前年対比で717件減少しているということで、大きく手術も制限したところで、この辺が収益の減少に大きく関わったと考えております。

○委員長 北谷文夫君 小黒委員。

○小黒 弘委員 今みたいに細かい数字を話していただけると、なるほどなというところはある程度分かります。ただ、入院収益が14億減っているのに、医業費用の関係でいうと2億5,000万ほどしか減少していないのです。普通入ってくるものが少なくなったら、出ていくものももっと少なくなっているのではないかと思うのですけれども、この辺はなぜこの差が出てくるのでしょうか。

○委員長 北谷文夫君 審議監。

○病院事務局審議監 渋谷和彦君 収益が14億入院収益で下がっているけれども、では費用も当然下がるのではないかといった質疑だと思いますけれども、大きく影響しているのは材料費の診療材料費でございまして、入院患者さんが減少したことによりまして診療材料費で約3億3,000万減少しております。ただ、費用が増加したといったところはいきますと、クラスターが発生すると職員に関わる防疫等作業手当、こういったところの増加もあります。それから、クラスターが発生すると入院されている患者さん、それから関わった職員に対する陽性確認のためのスクリーニング、そういったものにも試薬ですとか検査キットの費用も増加しております。それから、今回電気料や何かは高騰しております、ここでも大きく4,000万ほど増加していると、そういった追い打ちをかけられるような費用の増加もございまして、費用については思ったとおり減少にはならず、コロナの関連の費用がかなり増加しているといったことで考えております。

○委員長 北谷文夫君 小黒委員。

○小黒 弘委員 材料費の関係なのですけれども、費用で一番減っているのは材料費にももちろんなって、そこが3億円と今おっしゃったとおりだと思うのですけれども、さすがに入院収益が14億円、入院患者さんも1万6,000人ほど減ったという状態になったときにもっとこの材料費が落ちてもおかしくないのではないかとはい思うのですけれども、この関係というのはもう少し分かりやすくお話をされるとどんなふうになるのでしょうか。

○委員長 北谷文夫君 審議監。

○病院事務局審議監 渋谷和彦君 材料費全体のお話をさせていただきますと、まず薬品費では入院の患者さんが減ったことによって内服薬や何かは減少はしておりますけれども、

入院させないで外来で治療するがん患者さんに対する治療ですとか、そういったところでは大きく患者さんが増えておりまして、当然そこでは外来収益が増えたという要因にもなっております。あと、診療材料費につきましては、患者用材料で大きく3億円ほど減少しておりますが、手術、検査、この辺を見送っておりますので、うちの病院でいきますと循環器系の治療材料の減少、それから整形外科、消化器外科、この外科系の手術の見送りによる診療材料費の減少、こういったものが大きく影響したと分析しております。

○委員長 北谷文夫君 小黒委員。

○小黒 弘委員 材料費の仕入れの時期というか、段階なのですけれども、患者さんが増えたから薬や何かも増やしていくというふうではないのかともちょっと思ったりもして、年度の最初に予算化されているものの材料というのは仕入れてしまうのかどうかなのですかけれども、つまり患者さんが少なくなった、そこをちょっと止めていけば費用の大きさも減っていくのだろうと思うのですけれども、それが普通考えるやり方とは思いますが、病院の場合は特殊な状況があるのかどうかというところで収入がぐっと減っても費用がそれほど減っていかないというような要因になるのかどうか、その辺のところもお伺いします。

○委員長 北谷文夫君 病院事務局審議監。

○病院事務局審議監 渋谷和彦君 当院の診療材料を含めた薬品を含めて当初に物を購入して貯蔵品みたいな形で保管するといったやり方ではなくて、そのときの患者さんの状況に合った薬品を購入する、診療材料につきましてもそのときの手術に見合った診療材料を購入するといったような形になってございますので、その辺先に買って置いて患者さんがいなくなったので、その分余剰に病院にあるといったことではございません。

○委員長 北谷文夫君 小黒委員。

○小黒 弘委員 となると、先ほどから言っている入院収益の14億円と材料費の、ごめんなさい、前後してしまうけれども、人件費が下がらないことは分かります。幾ら入院患者が少なくなったってしっかりとそこに職員がいるわけですから、ここの給料を減らしていくわけにはいかないのです、そこは下がらないとは思いますが、その14億分の収益減の材料費減というのは大体3億、このぐらいのところは今言ったように少なくなってきてしまった、少し薬を減らしていこうという境目というか、そういう連動した数字なのかどうか、ここを確認させてください。

○委員長 北谷文夫君 審議監。

○病院事務局審議監 渋谷和彦君 材料費の割合は、診療収益の占める割合でいくと大体30%ぐらいと言われております。ただ、うちの場合は、循環器系の患者さんが非常に多いといったこともあって、診療材料に関しては高額な診療材料を利用するのが多いといったこともあって、そういった循環器系で見ると35%から40%ぐらいの診療材料を使うといったこととなりますので、やはり14億入院収益が落ちて診療材料でいけば3億3,0

00万の減少、割合的にはそんなに大きな開きはないのかとは考えています。

○委員長 北谷文夫君 小黒委員。

○小黒 弘委員 キャッシュフローを見ての話ですけれども、昨年度とがらっと変わってしまいました。令和4年度でも国等からのコロナに関する補助金は約10億を超えているので、ほぼ昨年度と同じです。昨年度の場合は、かなり大きな黒字になって現金を積める状況になったわけですが、今回のキャッシュフローを見ると完全に現金が減少して、あと残り10億ぐらい、もう一回この1年みたいなことが起こったら現金ゼロ、マイナスというような今現状だと思うのです。ここから先は、今度の当初予算ということになっていってしまうと思うのですけれども、ただこの段階で国からの補助金も10億あった、そうやっていったときに病院は大丈夫かと心配になるわけです。この辺のところは、少し安心をさせてくれないかと思うのですけれども、最後の質問にしますが、今後の病院の経営状況その他をお伺いをしたいと思います。

○委員長 北谷文夫君 病院事務局長。

○病院事務局長 朝日紀博君 昨年度コロナの補助金があったということになりますけれども、現金でも7億7,000万円ほど積むことができました。ただし、令和4年度決算見込みの状況ですけれども、10億ぐらいしか残らないような状況になってございます。その理由につきましては、今ほど審議監とか医事課長から説明があったとおりでございます。その中で申し上げておりました入院患者さんの手術の延期、検査の延期、こういったものがまだ、手術を必要とする人、検査を必要とする人はまだまだたくさん残っていると我々を見ておまして、今は昨年7月後半からのクラスターの長期化、それから出勤できない人たちがいてなかなか病棟もフル稼働できない状況が続いておりますので、来年の話になってしまいますけれども、不足する看護師さんを確保するために精神病棟を一元化をして一般病棟に回すだとか、そういった今対策も講じていまして、何とかこの令和4年度で失われるであろう現金をどうこれから取り戻していくかということを考えておりますので、それらを今後実行していくことが良質な経営につながっていくと今は考えてございます。

○委員長 北谷文夫君 これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより、議案第6号を採決します。

本案を、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

◎散会宣告

○委員長 北谷文夫君 以上で本委員会に付託されました議案第1号から第6号までの各議案の審査を全て終了いたしました。

これで第1予算審査特別委員会を散会いたします。

散会 午後 1時20分

委 員 長